

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームやすらぎの里にしき
作成日 平成23年2月17日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		理念の共有とよりよい実践につなげるためには、管理者と職員間のコミュニケーションを大切にしたい。職員一人ひとりの意見や自主性が尊重されるような「意見交換の場作り」の工夫が必要と思われる。	情報の共有ができる事で業務改善の取り組みが図れイキイキと働く事ができる。	業務開始前に3ユニットのリーダー事務所のスタッフが集まり、意見交換を行い情報共有を行なう。その他週1回の各棟の責任者会議・月1回の職員会議を行う。	1ヶ月
2		協力体制から協働体制に。また地域の自治会への加入などで、より地域とのつきあいが深くなることをきたいされる。	地域行事に積極的に参加する事でコミュニケーションが図れ職員・入居者がより地域と密着できるような生活空間を築くことができる。	地域の班長や分館長宅へ赴き、年間行事の把握を行い地域事業に参加する。	3ヶ月
3		利用者と家族会、職員の家族等も参加できる[バスハイク]の実施は、職員からの意見を反映する機会となり、より良い[グループホームの理念]の共有につながることを期待される。	職員が積極的に企画し、地域と協力して行けるような開かれた施設を目指す。	レクレーション係りが企画し、月1回の職員会議にて検討する。家族会の発足について運営推進委員会で検討した所、各家族に家族会発足の意向を確認した方が良いのではないかとこの事で文書にて確認を取り再度検討する事となる。	3ヶ月
4		使い慣れた家具や思い出に繋がる写真など、今後も家族と話し合う事で増えて行くことが期待される。	環境が変化する事での精神的な不安を緩和し、安心した環境を整える事ができる。	家族へ連絡し、家族の写真を持って来てもらって掲示したり、自宅にある本人が愛用していた物を持ってきてもらうか、重いものであれば、こちらから取りに行き居室の環境を整える。	1ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。